

領域「表現」と小学校音楽科における 教師の指導技術向上に関する一考察

—動画の活用を通して—

A study related to the field of “Expression” and development of
teaching skills in elementary school music teachers
— through video material media —

澤田悦子	鈴木佳代 ^{*1}	片寄ますみ ^{*1}
SAWADA Etsuko	SUZUKI Kayo	KATAYOSE Masumi

I はじめに

幼児や児童が音楽表現活動を幅広く体験することは、教育において大切な事である。近代音楽教育学のマルコム・テイトラは、現代社会に求められる人間の資質は「思考」「感受」「共有」のバランスの取れた育成であり、この三者こそ「人間」と「音楽」と「教育」を根源において結びつける気高い営みである⁽¹⁾と述べている。

幼稚園教育要領⁽²⁾第2章ねらい及び内容5. 感性と表現に関する領域「表現」では、[感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする] 1. ねらい (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。(3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。8つの内容の中でも音楽に関わる事として、(1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単な楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。と記されている。

小学校指導要領⁽³⁾では、A表現及びB鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。と示している。

幼児や児童の音楽表現を育むために、教師は、幼児や児童の表現を受け止め、楽しみや感動

*1 北翔大学教育文化学部非常勤講師

を共有し、表現を共感し合うことが求められる。そのためには、教師自身の演奏技術や音楽知識だけでなく、表現活動を楽しみ、豊かな感性を育み表現力を身につけることが必要である。

今年度前期は遠隔講義によるオンラインでの個別指導となった。本学では、唱歌・童謡集の全曲に連動した動画を作成・配布し、履修生はスマートフォンでQRコードを読み取り、動画を確認しながら練習に取り組むという方法で、初心者が7割を超える中、一定の効果を得た。文部科学省⁴⁾では、教育ICT (Information and Communication Technology) 化を推進する理由として、「教師に教えてもらう＝受動的な学び」ではなく、自ら「主体的に学べる」ようになること、学習意欲を高め効率的な学びに繋がること、視覚・聴覚からの情報量が増えることで学習内容が理解しやすくなること、などをあげている。アンケート調査から、各自の演奏力に沿った方法で動画を活用し、主体的に自身の練習に役立てていることが明らかになった。しかし、今までの動画はピアノ演奏初心者を対象とした非常に遅い速度のみの対応であった為、曲の完成された速度のイメージが捉えにくい状態であった。初心者がある程度弾けるようになった時、取り組む曲の完成されたイメージを捉えることが演奏するために大切であり、動画の速度改善が求められた。本研究では、再生速度変更機能をもつアプリケーションを導入し、将来の教師たちが自己の音楽表現力を高めることを目指し、その進捗の状況を検討した。

Ⅱ 方法

1. 科目「音楽実習Ⅰ」遠隔講義

音楽実習Ⅰでは、Teamsでのオンライン授業を行った。

2. 履修目標

鍵盤楽器の学習未経験者や初心者の場合、音楽実習Ⅰの履修目標は基礎知識、ピアノの演奏基礎技能の習得、音楽に対する意欲の向上を目指す。音楽実習Ⅱでは、音楽実習Ⅰで習得した基礎知識、演奏の基礎技術を活かし、さらに進んだ演奏技術の習得と、表現力・音楽性の向上を目指す。楽曲教材は、小学校・幼稚園教諭免許および保育士資格を目指す学生の音楽知識や技能を習得するための教材として、唱歌24曲・童謡33曲を編曲した「ピアノ曲&弾き歌い童謡」を活用している。鍵盤楽器の学習未経験者や初心者は、読譜力と演奏技術を身に付けることを目的とし、経験者は、個別習熟度レベルに応じて、練習曲の抜粋やバロック期から近現代のピアノ小品などを中心に学習する。歌唱教材は、「唱歌・童謡曲集」を使用し、並行して作成した動画と、速度変更アプリケーションの活用を合わせて、自主学習に活用する。小学校共通教材学習と童謡・唱歌の伴奏法を学び、取り扱いの意義と教材研究、指導法を実習する。

3. 歌唱教材

(1) 幼児教育コース

＜歌唱教材＞

朝のうた, アイアイ, おかえりのうた, あめふりくまのこ, あわてんぼうのサンタクロース, 犬のおまわりさん, うたえバンバン, うれしいひなまつり, 大きなたいこ, おかたづけ, おばけなんてないさ, おはながわらった, おべんとう, おもちゃのチャチャチャ, かつこう, かわずの夜まわり, げんこつやまのためきさん, コイノボリ, こぶためきつねこ, しゃぼん玉, 世界中のこどもたちが, ぞうさん, ぞうさんのぼうし, 蝶々, 手のひらを太陽に, どこでしょう, どんぐりころころ, とんぼのめがね, バスごっこ, ぶんぶんぶん, まつぽっくり, やきいもグーチーパー, 雪

(2) 唱歌童謡曲集, 編曲澤田悦子, 童謡33曲の動画はQRコードをスマートフォンで読み取り, 鍵盤楽器の練習時に活用できるようにしている。

(3) 初等教育コース・小学校共通教材

第1学年 うみ, かたつむり, 日のまる, ひらいたひらいた

第2学年 かくれんぼ, 春がきた, 虫のこえ, 夕やけこやけ

第3学年 うさぎ, 茶つみ, 春の小川, ふじ山

第4学年 さくらさくら, とんび, まきばの朝, もみじ

第5学年 こいのぼり, 子もり歌, スキーの歌, 冬げしき

第6学年 越天楽今様, おぼろ月夜, ふるさと, われは海の子

(4) 唱歌童謡曲集, 編曲澤田悦子, 唱歌24曲の動画はQRコードをスマートフォンで読み取り, 鍵盤楽器の練習時に活用できるようにしている。

4. 音楽実習Ⅰ・音楽実習Ⅱ 遠隔講義の展開方法

インターネットを利用したオンライン授業を行い, 3グループ展開で進度に応じた個人指導としている。WEB環境が整わない, 音声・映像が乱れるなどの状況が出る場合は, 学生が担当教員に演奏動画を送信し, それに対して指導行う。また, 学生からの質問は, オフィスアワーやチャット, メールでの対応とした。

5. アンケート調査

(1) 動画活用について

①唱歌・童謡曲集に並行して制作した動画の活用目的や活用方法など, 状況の把握。

②夏季休業中の課題取り組み状況・動画の速度変更アプリケーションの使用状況の把握。

(2) 進捗表

履修生が毎週指導を受ける曲と, 担当教員の指導を受けて学習する内容や課題の記入。

現在の進捗の把握と振り返りの確認を行い, 次回までの課題などを記述。

6. 調査対象・時期

(1) 調査対象

- ①音楽実習Ⅰの講義を履修している教育学科1年の学生を対象としたアンケート調査を行い、初等教育コース46名、幼児教育コースの26名、合計72名から回答を得られた。
- ②音楽実習Ⅱの講義を履修している教育学科1年の学生を対象としたアンケート調査を行い、初等教育コース35名、幼児教育コース24名、合計59名から回答を得られた。

(2) 調査

- ①音楽実習Ⅰの第15回講義終了時に、動画の活用状況を、アンケート形式で、選択項目と自由記述の内容とした。
- ②進捗表は、進捗の把握と音楽実習Ⅰの講義の学びの振り返りと課題などを記述。
- ③音楽実習Ⅱの第1回講義オリエンテーション後に、夏季休業中の課題取り組み状況と動画の速度変更アプリケーションの使用状況を、アンケート形式で選択項目と自由記述の内容とした。

7. 調査方法

音楽実習Ⅰの15回最終講義の後に、動画活用の状況および講義の振り返り、実技発表の感想、今後の課題をフォームズに回答し提出とした。

音楽実習Ⅱの第1回講義終了後、夏季休業中の課題の取り組みと動画の速度変更アプリケーションの活用について、フォームズに回答し提出とした。

8. 調査内容項目

- (1) 音楽実習Ⅰの15回最終講義後に、自主練習時の動画活用の状況について8つの質問項目から調査を行った。
 - ①動画の活用状況については、「いつも活用した」「時々活用した」「あまり活用しなかった」「全く活用しなかった」から選択する。
 - ②動画を「あまり活用しなかった」「全く活用しなかった」を選択した学生のみ、その理由について、活用しなくても弾ける、QRコードを読み込めない、通信制限がかかる、希望に合っていない、から選択する。
 - ③動画を「いつも活用した」「時々活用した」を選択した学生は、動画の視聴方法について、鍵盤画像だけみて聴いた、音源のみ聴いた、楽譜を見ながら音源のみ聴いた、鍵盤画像をみながら楽器の鍵盤の上で指を合わせて聴いた、鍵盤画像・楽器の鍵盤・楽譜を見ながら聴いた、その他、から選択する。
 - ④1週間の動画活用日数を、「6～7日」「4～5日」「3～4日」「1～2日」「0日」の中から選択する。
 - ⑤動画活用の目的を、「曲全体の把握」「メロディーの確認」「リズムの確認」「伴奏の確認」

「鍵盤の位置確認」「指使いの確認」「その他」から選択する（複数回答可）。

- ⑥動画活用の効果については、「とてもあった」「少しあった」「あまりなかった」「なかった」から選択する。
- ⑦動画教材を活用して成長したと感じたことについては、「楽譜を前より早く読めるようになった」「両手奏ができるようになった」「弾き歌いができるようになった」「表現力が付いた（ピアノ・歌・伴奏）」「テンポ・速度理解ができるようになった」「レパートリーが増えた」「歌い方が解るようになった」から選択する（複数回答可）。
- ⑧動画教材を取り入れ、練習に活用し、指導を受けた感想を具体的な内容で自由記述とする。

(2) 進度表からの振り返り

音楽実習Ⅰ最終講義終了後に、教育学科初等教育コース46名、幼児教育コース26名、合計72名は、講義を終えての振り返りと実技発表を終えての感想を自由記述とし、進度表を提出している。

(3) 音楽実習Ⅱの第1回講義オリエンテーション後、夏休み中の課題取り組み状況と、動画の速度変更アプリケーションの使用状況の確認のため、5つの質問項目から調査を行った。

- ①夏休みの課題の取り組みについて、「取り組んだ」「少し取り組んだ」「全く取り組まなかった」から選択する。
- ②夏休みの課題に「全く取り組まなかった」を選択した学生は、その理由を、時間が無かった、難しく感じて練習しなかった、環境が整わなかった、忘れていた、その他、から選択する。その他を選択した場合は、理由を記載する。
- ③速度変更アプリを「いつも活用した」「時々活用した」を選択した学生は、速度変更アプリの活用方法を、曲全体の把握のためテキストのテンポ設定に合わせて聴いた、メロディーの音程確認のためテンポを遅くして聴いた、指使いや鍵盤の位置確認のためテンポを遅くし視聴した、伴奏代わりに動画を聴きながら歌唱の練習をした、自分の力に合わせてテンポを調整しながら一緒に弾いてみた、その他から選択する（複数回答可）。その他を選択した場合は、活用法を記載する。
- ④動画の速度変更アプリについての感想を、「とても役立った」「少し役立った」「あまり必要ない」「今後活用予定」「わからない」から選択する。
- ⑤後期の目標に関しては、自由記述とする。

Ⅲ 結果

教育学科初等教育コース46名、幼児教育コース26名、合計72名に音楽実習Ⅰにおけるアンケート調査を行い、回答を得た。

(1) 動画活用の感想と、進捗状況を参考にす為に8項目のアンケート調査を行った。

①動画活用の有無は、「いつも活用した」22名(30.5%)、「時々活用した」33名(45.8%)、「あまり活用しなかった」13名(18.1%)、「全く活用しなかった」4名(5.6%)であった(表1)。

②「動画活用をしなかった」理由は、活用しなくても弾けるが14名(82.4%)、希望にあっていないは3名(17.6%)であった(表2)。

③動画視聴時の様子については、「鍵盤画像だけ見て弾いた」が4名(7.3%)、「音源のみ聴いた」は5名(9.1%)、「楽譜を見ながら音源のみ聴いた」12名(21.8%)「鍵盤画像を見ながら楽器の鍵盤上で指を合わせて聴いた」23名(41.8%)、「鍵盤画像・楽器の鍵盤・楽譜を見ながら聴いた」は11名(20.0%)であった(表3)。

④1週間の動画活用日数は、「6～7日」が0名(0.0%)、「4～5日」は5名(6.9%)、「3～4日」14名(19.4%)、「1～2日」47名(65.3%)と半数以上を占め、「0日」は6名(8.3%)であった(表4)。

⑤動画活用の目的は複数回答可とした。「曲全体の把握」が48名(66.7%)と最も多く、「メロディーの確認」38名(52.8%)、「リズムの確認」47名(65.3%)、「伴奏の確認」26名(36.1%)、「鍵盤の位置の確認」27名(25.0%)、「指使いの確認」26名(36.1%)、「その他」は4名(5.6%)であった(表5)。

表1. 動画活用の有無 [名・%]

いつも活用した	22 (30.5)
時々活用した	33 (45.8)
あまり活用しなかった	13 (18.1)
全く活用しなかった	4 (5.6)

表2. 活用しなかった理由 [名・%]

活用しなくても弾ける	14 (82.4)
QRコードを読み込めない	0 (0.0)
通信制限がかかる	0 (0.0)
希望に合っていない	3 (17.6)

表3. 動画視聴時の様子 [名・%]

鍵盤画像だけ見て聴いた	4 (7.3)
音源のみ聴いた	5 (9.1)
楽譜を見ながら音源のみ聴いた	12 (21.8)
鍵盤画像を見ながら楽器の鍵盤上で指を合わせて聴いた	23 (41.8)
鍵盤画像・楽器の鍵盤・楽譜を見ながら聴いた	11 (20.0)

表4. 動画活用の日数 [名・%]

週6～7日	0 (0.0)
週4～5日	5 (6.9)
週3～4日	14 (19.4)
週1～2日	47 (65.3)
週0日	6 (8.3)

表5. 動画活用の目的(複数回答可) [名・%]

曲全体の把握	48 (66.7)
メロディーの確認	38 (52.8)
リズムの確認	47 (65.3)
伴奏の確認	26 (36.1)
鍵盤の位置の確認	27 (25.0)
指使いの確認	26 (36.1)
その他	4 (5.6)

⑥動画活用の効果は、「とてもあった」48名(66.7%)、「少しあった」22名(30.6%)、「あまりなかった」0名(0.0%)、「なかった」が2名(2.8%)であり、90%以上の学生が動画の効果を感じていることが読み取れる(表6)。

表6. 動画活用の効果 [名・%]

とてもあった	48 (66.7)
少しあった	22 (30.6)
あまりなかった	0 (0.0)
なかった	2 (2.8)

⑦動画教材を利用して成長を感じたことに関しては、複数回答可とした。「教材の読譜が前より速くなった」20名(27.8%)、「両手奏ができるようになった」30名(41.7%)、「弾き歌いができるようになった」は36名(50.0%)、「表現力がついた(ピアノ・歌・伴奏)」19名(26.4%)、「テンポ・速度の理解」28名(38.9%)、「レパートリーが増えた」10名(13.9%)、「歌い方が解るようになった」は9名(12.5%)であった(表7)。

表7. 動画教材を活用して成長を感じたこと(複数回答可) [名・%]

教材の読譜が前より速くなった	20 (27.8)
両手奏ができるようになった	30 (41.7)
弾き歌いができるようになった	36 (50.0)
表現力がついた(ピアノ・歌・伴奏)	19 (26.4)
テンポ・速度の理解	28 (38.9)
レパートリーが増えた	10 (13.9)
歌い方が解るようになった	9 (12.5)

⑧動画教材を取り入れ、練習に活用し、指導を受けた具体的な感想として、「楽譜を見ただけではわからない指使いや、フレーズのまとまりを視聴し、理解することができた。」「特に指番号が付いていたのが分かりやすかった。」「ヘ音記号読み、演奏ポジションの確認、音符の長さの確認に活用した。」など、演奏の基本となる読譜や技術に関して活用したことが記されている。また、「自分の演奏動画と比較しながら、リズム・メロディーの学習を進めることができた。」「音符の読みはできるので曲の雰囲気参考に活用した。」「曲全体の流れやテンポを把握し、効率的に練習ができた。」「音の確認・強弱の確認に利用し、曲の理解に役立った。」など、動画教材は、学生それぞれの目標に対応できていた事がわかる。その他には「動画活用によりある程度は弾けるようになるため、不安な事だけを質問できて、指導時間内に効率よく進めることができた。」「曲がスムーズに弾きやすくなり、指導を受ける時には、毎回弾ける状態で臨むことができた。」など、演奏力の向上に意欲的な感想があった(表8)。

表8. 動画教材を取り入れ、練習に活用し、指導を受けた具体的な感想

- ・楽譜を見ただけではわからない指使いや、フレーズのまとまりを視聴し、理解することができた。
- ・自分のタイミングに合わせて何度でも視聴することができ、便利だった。
- ・お手本として見ることができ、ゼロから弾くよりも確実に弾きやすかった。
- ・知らない曲にもすぐに取り組むことができ、指導を受けた後の確認もできて良かった。
- ・ほとんどの曲を視聴していた。特に指番号が付いていたのが分かりやすかった。
- ・自分の演奏動画と比較しながら、リズム・メロディーの学習を進めることができた。
- ・楽譜を見ただけでは、思い込みで弾いてしまう場合があるが、間違いを正すことができてよかった。

- ・音符の読みはできるので曲の雰囲気参考に活用した。
- ・曲全体の流れやテンポを把握し、効率的に練習ができた。
- ・知らない曲、難しい曲、指使いが不安な曲も、弾くことができた。
- ・表現しようとしていることが先生に伝わっていることがわかり、役立っていると感じた。
- ・楽曲には動画教材がなく、難しい部分があった。
- ・音の確認・強弱の確認に利用し、曲の理解に役立った。
- ・へ音記号読み、演奏ポジションの確認、音符の長さの確認に活用した。
- ・全曲動画教材があるので、とても便利だと思った。速度変更ができることも良いと思った。
- ・曲調の変化や速度の変化がある時のみ、使用した。
- ・知らない曲でも練習が進み、知っている曲と遜色なく指導を受けることができた。
- ・口頭だけではわかりづらいこともあるが、動画活用で分かりやすくなり、練習に役立った。
- ・指番号の確認のために使っていたので、動画でなくてもよかった。
- ・動画活用の機会がなかった。
- ・実際に見たのは1～2回だった。
- ・速度調節ができないこと、フル画面に出来ないことがあり、動画だけで上達するのは難しかった。
- ・個人的に練習ポイントを質問してアドバイスを頂き、練習に活用した。
- ・動画を視聴し、繰り返し練習することで、拙いと思う自分の演奏も満足する出来となった。
- ・動画活用によりある程度は弾ける様になるため、不安な事だけを指導時間に質問できて、効率よく進めることができた。
- ・基本的な事は動画を見て理解し、表現方法については講義内に指導を受けることができた。
- ・動画を活用していくうちに弾ける様になり、次に進むための指導を受ける事が多くなった。
- ・曲がスムーズに弾きやすくなり、指導を受ける時には、毎回弾ける状態で臨むことができた。

(2) 進度表からの振り返り

音楽実習Ⅰ最終講義終了後に、教育学科初等教育コース46名、幼児教育コース26名、合計72名は、講義を終えての振り返りを自由記述とし、進度表を提出している。前期 音楽実習Ⅰを終えての振り返りでは、【ピアノ演奏】に関して「久しぶりのピアノ演奏で不安は大きかった」「マンツーマンで指導して頂く方式は、新鮮であった」「自分のグループは、演奏に慣れている人が多いので、良い刺激になった」「弾けるようになると楽しくなり、練習時間が長くなった」「指導の際は、改善されて良くなった点も伝えてもらい、ポジティブになれた」「今後も様々な曲に挑戦し、保育現場で役立つ曲のレパートリーを増やしていきたい」「今後は、聴いてくれる人に伝わるような表現を付けて弾きたい」などであった(表9-1)。

【弾き歌い】に関して「声の出し方、ブレスのタイミングなど、課題は多い。夏休みに練習を積み重ねていきたい」「声の出し方、響かせ方など学ぶことができ、自信を持つことができた」「伴奏のテンポを一定にしながら、指使いに気を配るよう努力した」「子どもたちが楽しく歌えることを考え、強弱の付け方、曲のイメージの表現を考えることができた」「高音を厚みのある安定した声にしたい」「腹式呼吸の練習をしたいと思う」など、今後に向けての具体的な目標を上げていた(表9-2)。

表9-1. 前期 音楽実習 I を終えて【ピアノ演奏】

- ピアノ学習の経験が無く不安であったが、3人の先生がしっかりと丁寧に指導してくれたので、安心して講義を受けることができた。後期にむけて夏休みも練習し、忘れないようにしたい。
- 指導についていけるかとても不安であった。
- 講義が始まる前は、置いていかれる怖さや心配があったが、弾けるようになってからリズムや流れのことまで指導して頂けるようになり嬉しかった。
- 弾けるようになると楽しくなり、練習時間が長くなった。
- 左手の動きや全体のリズムが、分からなくなることが多かった。
- リズムや拍子を崩すことなく弾けるようになるまでに、時間がかかった。
- 久しぶりのピアノ演奏で不安は大きかったが、個人に合わせた指導のおかげで、自分のペースで上達できた。
- オンライン指導のため焦りがあり、たくさん練習した。
- マンツーマンで指導して頂く方式は、とても新鮮であった。
- 自分のグループは、演奏に慣れている人が多いので、良い刺激になった。
- 自分の目標を持ち、出来ることに取り組もうと心がけた15回だった。
- 両手奏に慣れ、楽しさや達成感、充実感もあった。
- 先生のアドバイスが的確であった。
- 両手で演奏できるようになったことが、何よりの収穫であった。
- 指導を受けて次回までに直すというルーティーンできあがっているので、講義を終えても練習を続け、技術向上を目指したい。
- 演奏を楽しむ事ができた。
- 指導の際は、改善されて良くなった点も伝えてもらい、ポジティブになれた。
- 今後も様々な曲に挑戦し、保育現場で役立つ曲のレパートリーを増やしていきたい。
- 今後は、聴いてくれる人に伝わるような表現を付けて弾きたい。

表9-2. 前期 音楽実習 I を終えて【弾き歌い】

- 声の出し方、ブレスのタイミングなど、課題は多い。夏休みに練習を積み重ねていきたい。
- 歌い方・曲の強弱の必要性などに気づくことができた。
- 声の出し方、響かせ方など学ぶことができ、自信を持つことができた。
- 伴奏のテンポを一定にしながら、指使いに気を配るよう努力した。
- 両手奏が難しく、歌を付けるまでに本当に時間がかかった。3～4曲できるようになると、短時間で指が覚えるようになった。
- 徐々に弾き歌いが楽しくなってきた。
- 子どもたちが楽しく歌えることを考え、強弱の付け方、曲のイメージの表現を考えることができた。
- 子どもたちが一緒に歌ってくれることを想像するとわくわくする。もっと歌いやすく、楽しめるよう工夫しながら練習していきたい。
- 先生達の的確な指導の下、練習ができた。
- 初めてなので難しさを感じたが、15回の講義を終えて、歌の表現力が付いたことを感じた。
- 少し変わった練習方法は恥ずかしかったが、親身に教えてくれて嬉しかった。
- 達成感や充実感を感じるようになり、モチベーションが上がり、もっと上達したいと思った。
- 高音を厚みのある安定した声にしたい。
- 腹式呼吸の練習をしたいと思う。
- 夏休み中にレパートリーを増やせるようにする。
- 教育者になる上で必要な技術なので、もっと様々な曲に触れてみたいと思った。
- 幼稚園教諭や保育士の方々や学校教員の凄さを実感した。

【前期の発表を終えての感想】は、「初めてピアノを深く学び、練習の難しさを実感したが、なんとか最後までやりきった」「指導のおかげで、早い段階で考え方を改めることができた」「自分のレベルに応じた選曲をして頂き、練習しやすかった」「表現力をもって歌うこと、ピアノ演奏の表現方法の難しさがたくさん見えてきた。今後の課題として成長していきたい」「教員になってからもピアノ演奏は大切だと思うので、今後も自主練習を続けていきたい」などであった（表10）。

表10. 前期の発表を終えて

- ・自分の一番良い状態を出すことができず、悔しかった。
- ・発表直前までうまくできていたが、後悔が残る演奏になってしまった。後期は、練習する頻度を増やして臨みたい。
- ・冷静に演奏できるよう、もっと練習をすべきだった。
- ・課題は歌唱だと思っていたが、本番ではピアノが課題となってしまった。
- ・楽曲の仕上がりに不安を残したまま、発表に臨んでしまった。
- ・弾き歌いでは、歌唱より伴奏音が大きくなったと感じたので、気をつけたい。
- ・指導のおかげで、早い段階で考え方を改めることができた。
- ・初めてピアノを深く学び、練習の難しさを実感したが、なんとか最後までやりきった。
- ・自分のレベルに応じた選曲をして頂き、練習しやすかった。
- ・前期の指導内容を忘れずに、夏休み中も練習を積み重ねていきたい。
- ・たくさん練習して、自信を持って演奏できるようにしたい。
- ・子どもたちの様子を見ながら弾ける様に、余裕を持った演奏を心がけたい。
- ・表現力をもって歌うこと、ピアノ演奏の表現方法の難しさがたくさん見えてきた。今後の課題として成長していきたい。
- ・教員になってからもピアノ演奏は大切だと思うので、今後も自主練習を続けていきたい。

教育学科初等教育コース46名、幼児教育コース26名、合計72名に音楽実習 I におけるアンケート調査を行い、回答を得た。

- (3) 夏休み中の課題取り組み状況と、動画の速度変更アプリケーションの使用状況の確認のため、5項目からアンケート調査を行った。

- ①夏季休業中の課題の取り組みについては、「取り組んだ」12名（20.3%）、「少し取り組んだ」41名（69.5%）、「全く取り組まなかった」6名（10.2%）であり、約90%の学生が夏季休業中も課題に取り組んでいたことが分かる（表11）。

表11. 夏季休業中の課題 [名・%]

取り組んだ	12 (20.3)
少し取り組んだ	41 (69.5)
全く取り組まなかった	6 (10.2)

- ②「全く取り組まなかった」理由は、時間が無かった1名（16.7%）、難しく感じた1名（16.7%）、環境が整わなかった3名（50.0%）、忘れていた1名（16.7%）、その他0名（0.0%）であった（表12）。

表12. 全く取り組まなかった理由 [名・%]

時間が無かった	1 (16.7)
難しく感じた	1 (16.7)
環境が整わなかった	3 (50.0)
忘れていた	1 (16.7)
その他	0 (0.0)

③速度変更アプリケーションの活用目的は、「曲全体の把握」13名(59.1%)、「メロディーの音程確認」10名(45.5%)、「指使い・鍵盤位置確認」16名(72.7%)、「伴奏としての歌唱の練習」2名(9.1%)、「自分に合った速度調整」7名(31.8%)であり、自分の演奏力に合わせて活用している事が分かる(表13)。

表13. アプリ活用の目的(複数回答可)
[名・%]

曲全体の把握	13 (59.1)
メロディーの音程確認	10 (45.5)
指使い・鍵盤位置確認	16 (72.7)
伴奏として歌唱の練習	2 (9.1)
自分に合った速度調整	7 (31.8)

④速度変更アプリの感想は、「とても役立った」14名(23.7%)、「少し役立った」18名(30.5%)、「あまり必要ない」1名(1.7%)、「今後、活用予定」17名(28.8%)、「わからない」9名(15.3%)であった(表14)。

表14. 速度変更アプリの感想 [名・%]

とても役立った	14 (23.7)
少し役立った	18 (30.5)
あまり必要ない	1 (1.7)
今後、活用予定	17 (28.8)
わからない	9 (15.3)

⑤後期の目標は、「早めに読譜をできるようにし、記号や表現に気をつけて、幅広く多くの曲に挑戦したい。」「毎日練習する。練習を続けてきたことが、自分の自信に繋がると考えた。」「子ども達に楽しさが伝わる歌い方や雰囲気作りを、意識して取り組みたい。」「知らない曲は動画を活用して演奏し、卒業後の進路につなげたい。」「小学校教諭になるために必要な技術を身に付けたい。」「弾き歌いの時は高音を出せるようになる。」「声のだしがた、腹式呼吸を意識しながら、歌えるようにしたい。」「後期の発表では、<見せる>という意気込みで授業に参加する。」など、前期の学びを活かした内容が多くみられた(表15)。

表15. 後期の目標

- ・難しい曲でも挫けずに取り組む。音符の読みに慣れたい。
- ・演奏面では、左右の手の動きがバランスよく弾けるように練習したい。
- ・保育の現場で役立つ曲を優先して練習し、実践で活用できるようにしたい。
- ・早めに読譜をできるようにし、記号や表現に気をつけて、幅広く多くの曲に挑戦したい。
- ・発表の場でも、平常通りに弾けるよう、自信を付けたい。
- ・毎日練習する。練習を続けてきたことが、自分の自信に繋がると考えた。
- ・子どもたちに楽しさが伝わる歌い方や雰囲気作りを、意識して取り組みたい。
- ・知らない曲は動画を活用して演奏し、卒業後の進路につなげたい。
- ・自分も聴いている側も納得できるような演奏をしたい。
- ・対面指導になったら、自分から質問し、前期よりスムーズに弾けるようになりたい。
- ・教員採用試験に向けて、一曲一曲を丁寧に弾けるようにしていきたい。
- ・小学校教諭になるために必要な技術を身に付けたい。
- ・子どもが歌いやすい伴奏を弾けるように心がける。
- ・前期では弾き歌いに苦労したので、後期は自信を持って歌唱できるよう頑張りたい。
- ・歌唱が苦手なので、1音ずつ正確な音程で歌えるように練習したい。
- ・ただ弾くだけ、歌うだけではなく、抑揚を付け魅せるような、心地良いものにする。
- ・ピアノと歌のバランスを考えた演奏をしていきたい。
- ・弾き歌いの時には、高音を出せるようになる。
- ・余裕を持った表情で取り組みたい。
- ・声のだしがた、腹式呼吸を意識しながら、歌えるようにしたい。
- ・後期の発表では、<見せる>という意気込みで授業に参加する。

IV 考察

小学校指導要領^③では、A表現及びB鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。としている。幼児の表現については、思いのままに歌ったり、簡単なリズム楽器を使って遊んだりしてその心地よさを十分に味わうことが、自分の気持ちを込めて表現する楽しさとなり、生活の中で音楽を親しむ態度を育てる^④。リズムや歌を伴った遊びに面白さを感じ、楽器で音を出すことを楽しむなど、音楽活動や表現が子どもたちのイメージ力を引出し、感性を豊かにしていくと考えられる。

領域「表現」の面から保育者に求める表現力を考えると、「子ども達の表現に対して適応できる力」「工夫する力」を備えていることが重要だと考える。

音楽実習Ⅰでは、保育・教育の場で必要な鍵盤楽器の演奏に加え、弾き歌いの実技にも取り組んできた。今年度前期は、遠隔講義によるオンラインでの個別指導となり、使用教材としてある唱歌・童謡集の全曲に連動した動画を作成し、自主練習において活用した。動画の利点としては、①完成された全体を把握 ②メロディーの確認 ③和音進行の確認 ④リズムや指番号の確認などを活用できることである。また、演奏のサポートばかりではなく、動画を歌唱の伴奏として活用し、正確な音程の理解や練習にも効果が期待できる。アンケート調査からは、各自の演奏力によって動画の活用方法が異なり、自身に必要な学びかたで取り組んでいたことが伺えた。しかし、本講義では鍵盤楽器の学習経験初心者と習熟者が混在しているため、全員が活用するためには、動画の速度変更が課題となった。将来、教師となり子どもたちに向き合った時には、幼児の月齢や年齢、成長に沿った演奏力が必要である。様々な速度変化に対応できるということは、自身の演奏力や表現力の向上に役立つばかりでなく、子どもと共に表現を楽しむこと、創造性や感性を育むことにつながると考えられる。

今後は、対面講義においてもICT活用の利点を踏まえながら、児童の表現について、さらには幼児の表現をどのように促すのか、学生の演奏力と表現力の向上を検討していきたい。

引用・参考文献

- 1) 小学校教員養成課程用 初等科音楽教育法 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠
初等科音楽研究会編 音楽之友社 p8, マルコム・テイト&ポール・ハック著 千成俊夫ほか二名訳「音楽原理と方法」音楽之友社 第一部参照
- 2) 文部科学省：幼稚園教育要領解説 フレーブル館 平成30年3月 p233, p235, p238, p240
- 3) 文部科学省：小学校学習指導要領 平成29年7月 p12
- 4) 文部科学省 第11章 ICT活用の推進

- 5) 保育士受験対策講座 保育実習理論
- 6) 前田真由美：子どもの音楽表現とその意味—一年長児クラスでの実践の分析を通して—
- 7) 木村弥寿子：保育内容「表現」における学生の学びについて
- 8) 戸川晃子：ピアノ教授法における教育支援システム（LMS）活用の試み 神戸常盤大学紀要 第10号 2017 PP107-113
- 9) 渡会純一：ピアノ演奏技術向上に向けた動画教材の活用の試み—「表現技術Ⅰ（音楽）」での実践より—
- 10) 澤田悦子・片寄ますみ・鈴木佳代：鍵盤楽器と歌唱指導における動画教材の活用の試み—遠隔講義と自主学习での取り組みを通して— 北翔大学教育文化学部研究紀要 第6号 (2020)
- 11) みやざき美栄・山崎めぐみ：保育士養成校における遠隔ピアノ実技指導の報告と検討—感染症予防のための授業実践から—
- 12) 持田京子・金子智栄子：子どもの創造的音楽表現に及ぼす保育者の影響 文教大学人間楽部研究紀要 Vol.10, No.1, pp37~47, 2008.12
- 13) 鈴木百合香：「保育内容表現 音楽」授業における学生の学習過程—音楽と動きをテーマとした授業アンケート及び感想から—
- 14) 栗栖由美子・藤井康子・永田 誠：幼児の豊かな感性や表現する力を育む 領域「表現」に関する保育内容の検討 大分大学教育学部 研究紀要 第41巻第2号 2020年3月 別刷

